TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

特集
教科書の徹底活用

巻頭エッセイ
英語の音を聴くことが大切 ..... Peter Barakan 01

特集
基礎学力と教科書活用 ..... 今井裕之 02
本文で何を学ぶことができるか ..... 杉本 薫 06
コミュニケーション能力の育成を目指す授業 —基本文(文型・文法)の定着— .... 日臺滋之 08
教科書を創造的に縦横無尽に使おう ..... 室井美稚子 10

連載
英語教師のための基礎講座 自分の頭で考えませんか ..... 斎藤栄二 12
評価クリニック コミュニカティブ・テスティングへの挑戦 ..... 根岸雅史 14
授業レポート
楽しくて力のつく授業[2] —リスニング力をつける指導— ..... 二宮正男 16
小学校英語 Just Now
「気づき Awareness」を教育目標にする英語活動 ..... 下 薫 19
単語の文化的意味 67 busy ..... 森住 衛 21
Essay
Reading Instruction ..... Ron Martin 22
英語教師のリソース
Hot Potatoes™ でインターネット教材を作ってみよう ..... 荒尾浩子 23

AROUND THE WORLD アフリカの手話の世界探訪[2] ..... 亀井伸孝 表紙裏
表紙写真について FA Premier League ..... 編集部 表紙裏

Vol.9
SUMMER 2007
SANSEIDO

AROUND THE WORLD

アフリカの手話の世界探訪[2]

9 ろう者の村・ガーナ

亀井伸孝　Kamei Nobutaka　（関西学院大学）

国名「ガーナ」の手話表現

「ようこそ。どうぞ，ここへおかけください」

「やあやあ」「やあやあ」（握手，握手，握手…）

ガーナの首都アクラ近郊の，ある農村を車で訪れた。こういう気さくな村人の歓迎は，アフリカの村ならどこでもよく見られることである。ただし，今回は一つだけ違う点があった。村人の会話がすべて手話だったのである。

この村では，遺伝で耳が聞こえない人が代々生まれるため，村独自の手話ができ，耳の聞こえる村人たちも手話を話している。私たちが短時間おじゃましたとき，家々の陰からにこやかに現れた村人たちの多くがろう者だった。

手話は，世界各地の耳の聞こえない人たちの間で生まれた自然言語である。ろう学校など，都市部のろう者の集まりでできた手話もあれば，先天性のろう者が多くいる村で自然とできた手話もある。アメリカ，インドネシア，メキシコなど，各地に似たような村があったとされるが，近代化と村の変容の中で消滅した手話もある。

「子どもたちは，町のろう学校の寄宿舎にいるんですよ」

ガーナでは政府によりろう教育が整備され，ろう児は無償でろう学校に通うことができる。学校で使われているのは村の手話とは異なる「ガーナ手話」で，ろう教育の成立とともに生まれた都市部の手話だ。最初のろう学校がアメリカ人ろう者の尽力により設立されたことから，ガーナ手話はアメリカ手話の影響を受けている。町のろう者たちと仕事をしてきた私は，ガーナ手話は話せるが村の手話はわからないので，訪問のときは両方を話せるろう者に同行してもらい，二つの手話の間の通訳を通して村人と話した。

ガーナ，東部州のろう者の村（2006 年，著者撮影）

ガーナ手話もこの村の手話も，どちらもガーナのろう者たちが作り，伝承してきた言語であることに変わりはない。一方は町の手話として多くの外来の語彙を取り入れ，学校の教授言語となった。一方は村の暮らしになじむ手話として代々村のろう者の間で伝えられ，話されてきた。

「町のろう者の方が来て，村にキリスト教会を建てました。私たちはそこでガーナ手話を勉強しました」

村の生活文化と言語の変容のきざし。そこに「知られざるもう一つの近代化」がうかがえるようでもある。

手話の世界にも多言語世界が広がり，制度の保護を受ける言語とそうでない少数言語がある。そこには音声言語世界にもよく似た，言語どうしの関係をめぐる難しい問題がある。

表紙写真について

FA Premier League

編集部

日本のＪリーグにあたる（といっては，向こうが本家本元なので，おこがましいが）イングランドの FA プレミアリーグ（FA Premier League）は，セリエ A，リーガ・エスパニョーラなどと並ぶ世界最高峰のサッカーリーグだ（イングランドではサッカーはフットボールという）。

写真は，前年のシーズンで優勝したチェルシー FC のホームグランド，スタンフォードブリッジ（Stanford Bridge）の客席からの光景。撮影当日は，チェルシーとフルハム戦。冬の雨がときおり激しく降る荒れた天気で，ピッチに立っている選手たちはびしょぬれであったが，客席は屋根が完備していて快適に観戦することができた。選手たちに申し訳ない気にもなったが，雨など気にする様子もなく，彼らはひたすらたたかっていた。

筆者は，前から４列目の席からの観戦で，まさに目の前を選手が駆け抜ける迫力を味わい，男たちのたたかう表情までもが見て取れた。日本ではサッカースタジアムといえば観客席とピッチの間に溝があったり，競技場ではトラックが間に入ったりが普通だが，そうした観戦に慣れたものとしては，当スタジアムの観客席とピッチの近さに驚き，かつ興奮してしまう。さらに，客席とグランドの上下の位置関係もすごい。観客席最前列のフロアは，ピッチの地面と同じか，やや低めの位置にあり，丁度演劇の舞台を客席で見上げているかのごとく錯覚に陥る。サッカーを面白く観るのはこういうことなんだよ，とサッカーの発祥地で教えられたような気分だった。

巻頭エッセイ

英語の音を聴くことが大切

ピーター・バラカン　Peter Barakan

Opening Essay

「日本人の英語はどう思いますか」不思議とよく聞かれることです。不思議というのは，つまり日本人全員に共通する英語の特徴があるはずはないからです。それぞれが個人ですから，当然能力も感性も千差万別でしょう。

しかし，多くの人の英語に大きな影響を及ぼす要素として，英語がカタカナで教えられることがあると思います。これによって英語を話すときの日本人の発音はわかりにくくなっていると言えます。ぼくが日本語を習い始めた大学一年生のことを思い出します。英語をカタカナに置き換える授業を受けましたが，先生は色々な英単語を並べて，ぼくらはそれをカタカナで書かなければならなかったのです。その一つは Oxford でした。ぼくは少し悩んだ末，最も近いと判断した「オクスフッド」と書いたのですが，これが間違っていると言われたとき理解できませんでした。正解は「オクスフォード」だと？ でも，それは英語の発音と明らかに違うのではありませんか，と反論しても，日本語ではこう書くのだ，ときっぱり言い放たれてしまったのです。何となく嫌な予感がしました。

英語を話そうとする日本人が抱える問題はここに集約されているのだと思います。同じ東アジア人でも，中国人や韓国人が話す英語は，必ずしも発音がパーフェクトとはもちろん限りませんが，少なくとも日本人より英語発音に近い分，わかりやすいです。かれらの教育現場は全く知りませんが，ネイティヴの英語発音で授業を受けているはずです。

ことばがコミュニケーションのためにあることは言うまでもありません。長年東京で暮らしているぼくは日本語を話しているときに英語の単語が出ても，全て条件反射的に日本語発音で言います。そうしなければ何を言っているか誰にもわからないという極めて常識的なことですが，そういう発音ができることに感心してくれるかたがときどきいます。もちろん一定の努力が必要なことですが，そのぐらいのことはあたりまえだとぼくは思っています。

英語圏の人に通じる英語を話したい日本人に言いたいのは，音をよく聴いてください，ということです。日本で一般的に使われている英語の表記の大部分は間違っているので字面で判断すればまずいです。マス・メディアも含めてそうです。そしてその間違いを直そうとすると，相手が迷惑がることが少なくありません。日本は日本の論理でけっこう，と言わんばかりの傲慢な印象を受けます。

最低でも，人の名前はちゃんと発音してほしいです。先日テニスの中継を観ていたら，セリーナ・ウィリアムズのことを現地のアナウンサーが英語で言っているにもかかわらず，日本側の解説者は頑なに「せれな」と呼んでいたのです。メディアの影響力が絶大なだけにこういうことはあってはならないと思います。そんなのはわからないというのも言いわけになりません。解決方法は簡単です。疑問があったらネイティヴ・スピーカーに聞けばいいです。

ピーター・バラカン
ブロードキャスター。1951 年英国ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学科を卒業。1974 年に来日。音楽関連の出版社勤務を経て，放送界に進出。以来，独自の選曲によるポピュラーミュージックの紹介者として活動。ＦＭ放送を中心に，数本のレギュラー番組で大活躍。

特集 教科書の徹底活用

基礎学力と教科書活用

今井裕之
（兵庫教育大学）

1. 中学英語の基礎学力とは何か

「英語教育のプロならば，こう問われて即答できねば！」そんな強迫観念はありませんか。全くないのはどうかと思いますが，即答できないからといって，「だから私はダメな英語教師なのだ」と落ち込むこともないと思います。なぜなら「基礎とは何か」という問いは，「応用」「発展」との組み合せで相対的に説明しなくてはならない上に，学力の構成要素の組み合わせ方やその発達のプロセスは一様ではないからです。「1年生の1学期のこの時期には何を教えることが基礎として重要か」という限定でもあれば即答もできましょうが，そうでなければ，簡単に3年間でつける学力の基礎部分を語ることはできません。本誌でもこのテーマが繰り返し取り上げられるのはそれゆえでしょう。

そんな多様な解のある問いに対して多くの英語教育者たちが集まって知恵を絞って一つの英語学力観に収斂させたものが教科書であるといえます。その教科書の提供する情報を活用し，何が基礎で何が応用，発展かを知るためには，「教科書リテラシー（教科書の仕組みや意義を読み解く力）」とでもいうべきものが要求されると思います。以下では，6社から発行されている教科書を通読し，基礎学力養成のポイントとして重要だと感じたことを述べたいと思います。

2. 教科書を活用することで身につく基礎力

教科書は，学習内容と学習・指導方法のデータベースであり手引書です。授業中にも，家庭学習にも活用されますが，そのような「学びの友」としての教科書の役割を以下に示します。

	果たしている役割	さらに期待されること
語彙	・単語の一覧 ・語彙の重要度を踏まえた選定	・単語の読み方 ・語彙定着の言語活動 ・日本語訳以外の意味記述
本文	・忘れられない，見過ごせない大切なテーマの提供 ・音読，暗唱のための良質のテクスト	・もっと一人称の語りを多くして生徒の取り込みやすいことばに
評価・目標	・学習達成目標の提示	・生徒にもわかる評価の基準
文法・基本文	・簡潔な説明 ・巻末でのまとめ ・基本文定着の練習	・自学できるほどの説明と整理 ・文法の重みづけ，見直し
活動	・文法定着活動 ・機能重視の活動 ・タスク活動 ・テーマ追求型活動	・自由作文などの自己表現活動

これは私が6社の教科書を通読した解釈であって，人によって違いはあろうことをお断りしておきます。その上で，教科書が基礎学力を養う上で特に重要になる，語彙，文法の2点について，何を先に教えなくてはならないか，何を教えることが後の学習負担を減らすのかを検討しましょう。本文のテーマや言語活動は縦に積み上げる系統性が乏しいですが，文法や語彙は系統性次第で，生徒の表現力を大きく変えますので，基礎学力を定義することは，これらの項目間の優先順位を明確にすることになると思います。

この語彙と文法については，次の項目で説明します。また，教科書の「本文」については杉本薫氏に，「基本文」については日臺滋之氏に，また上記の枠にとらわれない「教科書の創造的な使い方」につい

ては室井美稚子氏に，詳しく述べていただくことにします。

3. 基礎学力に迫る方法

仮にここでは，応用・発展に対する基礎の定義を，ほかよりも先に指導すべきこととして，語彙，文法について具体的に考えてみましょう。その際，教科書が果たす役割として「指導内容の選定」「指導方法や学習活動の提供」の2つを軸にして基礎学力にアプローチします。

(1) 語彙の選定と指導について

【語彙選定】 900語程度の単語が教科書には載っていますが，何を先に教えるべきでしょうか。語彙選定にはコーパスを活用し，900語を表現語彙，理解語彙，話題語彙（*NEW CROWN*の場合は，指導書の解説・活用編に記載）などのカテゴリーで重要度を示しているケースもあります（詳しくは日臺2006[*1]参照）。

近年のコーパスに基づく語彙の分類研究は，基礎とは何なのかという問いに答えてくれます。例えば，石川慎一郎氏の作成した「小学校英語のための基礎語彙1850（KUBEE1850）」[*2]などのように，日本の子どもたちに適した語彙指導を考えるベースとなるもの。また，語彙の頻度（frequency）ばかりではなく，親密度（familiarity）をデータベース化した横川ほか（2006）[*3]の研究のように，語彙指導に確かな根拠を与えてくれるものがあります。

aboveを例に考えてみましょう。この単語は，使用されている教科書と使用されていない教科書があり，中学で習うかどうかのボーダーライン上にある語といえます。機能語なのに意外ではないでしょうか。前置詞の中ではaboutほどではないにせよ，aboveも大事な語彙のように思われます。横川らの研究によれば，aboveは頻度こそ高いのですが，実は日本人学習者にとっては親密度の相当低い単語になっていることがわかります。「上」を表す別の語，upやoverの方が，頻度も親密度も遥かに高く，aboveは隠れた存在になっていることがわかります。KUBEE1850でも頻度については同様のことがいえます。またKUBEE1850は，小中連携で苦労する教育現場に教科書が応えきれていない部分を補ってくれる存在でもあります。小学校英語活動を経験して入学した生徒たちの語彙力を測る際にも参考になりそうなリストです。

【語彙指導】 語彙学習の活動提供は，語彙選定と同様，とても大切な教科書の役割です。表現力育成を重視する人は動詞や名詞の指導を優先するでしょうし，文法文型指導を重視する人は代名詞や前置詞をむしろ大切と考えるかもしれません。指導のあり方と語彙の重みづけは深く結びついています。教科書に用意されている言語活動は，文法，機能と関係づけられているものが多いように思います。そこで，語彙の用法を生徒に実感させて表現力の基礎を育てるためには別の活動を用意する必要があります。語彙理解を日本語訳まかせにしてしまっては，学習者の語彙理解は深まらないからです。「表現語彙」の中でも頻度や親密度が高い語に絞って言語活動を組むなど，的確な語彙選定と意味用法を実感できる活動づくりが，今の教科書にもう一工夫すればできるのです。

(2) 文法の指導について

次に文法の指導について考えてみましょう。教科書は，文法項目の選定，配列，指導方法について長年の積み重ねがありますから，もう完成された感があるかもしれません。文法項目一覧を見ると，1年次は，SV，SVC，SVOの基本文型について，それぞれ平叙文，疑問文，否定文を学ぶことがまず基本です。そして，文を作る上で重要な要素として，代名詞やWh-疑問が教授され，表現の幅を広げる過去形，進行形，助動詞が加わるといった具合です。1年次の文法を使えば，自分や家族の紹介をしたり，過去の出来事について日記を書いたり，友人と簡単な会話ができるようになります。即興性はまだ望めませんが，準備を丁寧にすれば，1年の終了時でも，単純なパターンの繰り返しながら，かなりの表現が可能になるような文法の選定がなされています。

指導順序と方法についてもうまく構成されています。言うまでもありませんが，平叙文の語順をしっかりと定着させることが，その後の疑問文，否定文指導，進行形や助動詞の導入をスムーズにするために大切ですので，平叙文指導は疑問文，否定文指導のための「基礎」になります。文法指導については，

文型（語順）の定着の観点からみると，基本構成は適切であることがわかります。

しかしながら，全く問題がないわけではありません。基本文から漏れている文の要素ながら，実際の表現活動では重要な役割を果たす,「どこで」「いつ」などの修飾句の扱いが教科書によって差が見られます。文法構造上の「基礎」ではないかもしれませんが,「どこで」「いつ」といった要素は，Wh- 疑問や過去形の導入により，どんどん使う機会が増えてきます。1 学期には “I play tennis.” と級友が発話するのを聞いて「ああ，彼はテニス部か」と納得できていたものが，3 学期になって “I played tennis.” と言うとなると，それでは聞き手は納得できなくなります。コミュニケーション上は，修飾句こそが重要な情報を伝えるようになりますから,「どこで」「いつ」といった要素は，基本文型と同様しっかり定着させなくてはならない「基礎」であることがわかります。田尻悟郎氏の『自己表現お助けブック』*4 などは，伝えるメッセージをどの語順で表現するかという視点で文法を捉えることの大切さを教えてくれます。

また，1 年生段階の文章表現では，長く複雑な名詞句が主語になることはなく，たいていが人称代名詞か短い名詞句になりますので，人称代名詞の習得は 1 年次の自己表現力を支える「基礎」といえるでしょう。人称代名詞は「文法のまとめ」などのページに整理して提示されている教科書がほとんどですが,「どこ」「いつ」の前置詞句と同様，人称代名詞も，基本文に登場しない「隠れた文法の主役」として丁寧に扱う必要があるでしょう。

(3) 補足

基礎学力を身につけるための教科書活用を考える上で大切なことをひとつ補足します。それは，文字で書かれた単語を音読できるようにして，生徒がひとりで教科書を活用できるようにすることです。

1 年次の最初のひと月あまりは教科書を使わないという先生の話をよく聞きます。「ゴールデンウイーク明けくらいかな」とおっしゃいます。そういう先生は，中 1 最初にしなくてはいけないことは「英語は読めるんだ」という実感と自信を生徒に持たせることだとして，フォニックスをはじめとする文字音声指導を徹底されます。多くの教科書は, アルファベット，クラスルームイングリッシュ，身の回りの英語，歌などを LESSON 1 の前に導入して，学習者への動機づけや基礎的な事項の指導を行います。しかし, 英語を学び始めたばかりの中学生にとって, 英語のインプットは音声経由と文字経由がほぼ同時期に始まりますので，単語を読み慣れない生徒は，インプット量の点で最初からハンデを負うことになります。前述の先生は，レッスンが始まっても，新出単語とは別に，フォニックス用の単語カードセットを使って読めるようになるまで指導を続けます。単語が読めることは，現在の教科書を使った英語学習には不可欠な条件です。読める単語の音節数を増やしつつ，初見の単語を音声化できるようになるまで導きたいものです。

こうしてみると，1 年生は，実にたくさんのハードルを越えて 2 年生の学習課程に進んでいくことがわかります。2 年次に文法や語彙が難しくなって，英語が苦手になる生徒が増えるというよりも，1 年次のこうした隠れた基本の積み重ねが十分でないがために，2 年生の内容を咀嚼できなくて苦手になるのかもしれません。幸い，ここまで語彙と文法を例に挙げて見てきたように，教師が多少補足すれば，教科書の指導内容の選定も指導方法も，どの教科書をとっても，よく吟味されたものであることがわかります。単語を読めるようになる指導は 1 年間通してしっかり続けるとして，入学時の生徒の語彙知識を把握し，基本表現語彙を使えるようにする指導や，基本文型に修飾句も加えて定着を図ることを心がけることで，基礎学力の指導ポイントは押さえられそうに思えるのですがいかがでしょうか。

4. 教科書の徹底活用のためのカスタマイズ

教科書は英語での総合的なコミュニケーション活動へ至る道のりを支援する手引き，言語知識のデータベースとしての役割を十分果たしていると思います。英語を教える教師の立場からすれば，教科書は言語活動，言語知識を提供してくれる頼りがいのある存在でしょう。実情に合わない部分を改善し，前述のような補足修正をすれば，生徒の英語学力養成の基盤を担ってくれるはずです。

一方で，教科書が生徒たちにとって，「学びの友」になっているかどうかを考える必要もあるでしょう。徹底活用する主役はむしろ生徒たちですから，かれらにとって身近で不可欠な存在でなくてはなりません。教科書の中には，学習のポイントや到達目標を生徒にわかりやすく示したものもあります。そういった試みにより，生徒自身が学習活動の意義や効果を理解しながら教科書を使うことができるようにすることは今後も大切になるでしょう。私たちの学生時代を振り返ってみてもわかりますが，切羽詰まって目の色を変えて勉強しなければいけないときほど，教科書ではなく参考書やワークブックに向かったのではないでしょうか。一目見てポイントがわかること，必要十分な知識が整理されていること，技能知識の定着に結びつく練習が個人でできることなど，教科書よりも参考書やワークの方が向いている点はいくつもあります。その点では，今の教科書も，生徒にもわかりやすい，使いやすい編集がなされていると思いますが，例えば新出単語を覚えやすくリストにしたプリントを配布する，基本文を生徒の生活により身近な文に換えた暗唱用ワークシートを作るなど，教師や生徒自身が教科書をカスタマイズすることによって，参考書やワークに負けない「自分の教科書」づくりができれば，なお活用に弾みがつくのではないでしょうか。

5. おわりに

英語の教科書は，他教科の教科書よりも身近な存在であるように思います。「中学校のとき，どの教科書使ったか」と聞かれて，出版社名でもその内容でもなく，まるで小説のように，教科書のタイトルや登場人物の名前が思い出されるのは英語科くらいでしょう。英語だけは「英語」ではなく *NEW CROWN* などの名前がついています。英語の教科書は，それを両手に持って自宅でひとりで，あるいは教室でクラスメートたちと一緒に音読したり，教科書を閉じたり開いたりしてリスニングや暗記をしたり，あちこちに書き込みをしたりと，ほかの教科書にはない，その隅々まで全部取り込むような活用をするように思います。英語教科書は特別な存在感をもっているのではないでしょうか。自らが望めば，身近な生活の中に英語が頻繁に大量にある現代においてさえ，やはり，入門期の学習者に良質の言語材料と，その指導・学習の方法を提供している中学校英語教科書の価値は損なわれるものではありません。むしろ，英語が大量にあるからこそ，精選の極みを目指している教科書の意義は高まるのだと思います。

本稿では，特に語彙と文法項目の選定と指導方法を中心に，中学英語の「基礎」を議論してきました。何を優先して教えるべきなのかという問いへの答えを「基礎」と位置づけ，コーパス活用や，語順指導や代名詞などを例に，それらがなぜ重要なのかを考えました。また，音声と文字を結びつける指導が生徒を教科書活用のスタート地点に立たせるために不可欠なことなどを加え，基礎学力と教科書活用の関係を述べてきました。このような教科書が提供する題材の背景にある意図や基礎研究について理解することは，教科書リテラシーを上げることになります。そして，その理解を基に，自分の指導や学習に足りないことや補足すべきことをさらに加えて，自分たちだけに特別な教科書をカスタマイズしてください。教科書を生徒にとって愛着の止まない思い出深い学びの友に育てていくことを，今年の先生の教育目標とするのはいかがでしょうか。

【参考文献】
＊1　日臺滋之（2006）『生徒の語彙力を伸ばすために』Teaching English Now 特別増刊号 Vol.1
＊2　石川慎一郎『小学校英語教育のための基礎語彙表1850』
URL http://www11.ocn.ne.jp/~iskwshin/kubee.html
＊3　横川博一ほか（2006）『日本人英語学習者の英単語親密度　文字編』くろしお出版
＊4　田尻悟郎（2005）『自己表現お助けブック―英語がわかる！』教育出版

特集 教科書の徹底活用

本文で何を学ぶことができるか

杉本 薫
（江東区立東陽中学校）

1. 教科書の本文とは

教科書で普通「本文」と呼ばれる部分は実に多様で，会話やダイアログで展開するページもあれば，物語を記述するページもある。手紙やポスターのようにコミュニケーションの一つの形態に特化しているものもある。内容についても，特定の登場人物の学校や家庭での生活を追って日常使われる表現を紹介しているもの，日本や海外の文化的な面に触れているもの，文学作品や映画の要約，実在の人物の生き方をドキュメンタリー的に紹介するもの，意見文や論説文のように問題提起を意図するものもある。

しかし，英語の教科書なので当然制約もある。それらは英文や語彙の量であり，使用される表現のレベルなどである。基本文や重要な表現の配列，いわゆる文法事項は，現行の教科書ではすべてこれが構成上の中心的な要素になっている。いわば，縦軸である。そうすると横軸の方は，語彙や音声についての指導事項だろうか。

教科書本文の多様性とは，縦軸（x 軸）と横軸（y 軸）に対して，z 軸のように立体性を持たせる要素といえないだろうか。ある表現が使われる場面背景，人物描写，そしてある表現の言語使用の必然性を受け持つ部分だからだ。

もう一つ忘れられない要素は，「内容の面白さ」だろう。教科書には多くの制限があるので，この英文量だけで，「わくわくしながらページをめくる読書の楽しみ」を教えることは難しい。しかしそのような読み方への橋渡しは可能である。例えば作者や小説など文学作品の紹介，話題や題材の提供という部分である。読書への接近を促すという意味では，さらに重要だし，教師の人生経験が大いにものをいう分野である。

本文を有効に使うことは，言語を教科書という2次元の世界から立体的に引き出して，我々の生活する社会に近づけることといえそうだ。

僕は英語の授業でよく映画の話をする。実際に映画を見せることもあるが，「映画で英語を学ぶ」という話になると，こんな言い方をする。好きな映画を見つけて，何回も見て，気に入ったセリフを一つ覚えなさい。2時間の映画でセリフ一つ。非効率的に聞こえるが，非常に有効である。映画は2時間のドラマの中で，時代や社会の背景，登場人物の性格，生き方，過去，人間関係を説明しきっている。その理解に基づいてある場面で使われる「ひと言」は，よく理解できるはずだ。運良く同じように使える部面が巡ってくれば，これは絶対の自信を持って使える。めったにはないけれど。

この「ひと言」が基本文だとすると本文は映画本編になる。教科書3～4ページの本文は3億ドルの制作費に対抗できるだろうか。僕はできるかもしれないと思っている。ただし，黙って2時間座らせておけばいいわけではない。2次元から3次元にふくらませる教師の指導の工夫が必要になる。

2. 教科書を開く前に―「聞く」「話す」から

新教材を扱うために，授業で教科書を開くのは，授業の後半になることが多い。その前に欠かせない指導がオーラル・イントロダクションである。これは，「読む」教材を，「聞く・話す」領域で導入して，「読む」ことの準備をする学習である。一方的に教師が説明するばかりではなく，多くの場合オーラル・インターアクションとして生徒との英語でのやりとりを増やす手法が用いられる。

ここでの提示の仕方をモデルとして，後に生徒に教科書の内容を再現させることは，非常に有効な指導方法である。英語を使った発表活動としては，同じレッスンだけでなく，次のレッスンでも繰り返して指導できる場面だからだ。「読む」教材を，最終的に「聞く・話す」領域で発信させることができる。学習の立体化のイメージはここでも有効だ。

こういった考え方でとりくめば，教科書の本文の指導を通じて，例えば【表現の能力】の領域の「既習の英語を用いて簡単なプレゼンテーションができる」「事実を正確に英語で説明し，伝えることができる」というねらい（評価規準）に迫ることができるだろう。また，このような活動をある程度繰り返していくことによって，【表現の能力】に至る以前の段階として，【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の領域を指導，評価することができる。その場合の評価規準は「既習の言語材料を用いて，英語を使うことができる」「ほかの生徒の英語をしっかり聞く態度が見られる」，さらには「間違いを恐れず，英語を使うことができる」といった項目になるだろう。

オーラル・イントロダクションでは，既習の表現で，既習の語彙を使って理解させることが基本だ。しかし，新教材には当然新しい語彙が含まれている。これらを効率よくドリル練習することも重要である。ここがフラッシュカードの出番になる。新出語彙の数にもよるが，語彙のスペリング，正確にいうと視覚情報（ビジュアル）と音声が結びつくことがねらいである。もちろん意味についても簡単に導入しておきたい。また，後日復習するときも，1度目にしたフラッシュカードの印象は大いに利用できる。

3. 本文を使って ―「読む」

「英語を読む」ことはいろいろな意味にとらえられる。読書するような読み方もあれば，教室で音読することも「読むこと」の一つである。いわゆる読解力，評価規準でいえば【理解の能力】の領域で，「英文を読んで，事実関係を正確に読み取ることができる」や「ある分量の英文を読んで，その大意を理解できる」などをねらいとすれば，教科書の本文はそのやり方の一例を学ぶ材料に過ぎない。筆記試験をやるにしても，同じ本文をそのまま使うことはまずできない。記憶力に左右されやすい内容で“理解の能力”は測れないからだ。この部分でも，教師の努力が必要になる。

「音読練習」は，多かれ少なかれ毎時間必ず授業の中で繰り返されている学習だろう。中学生の英語の基礎学力の一つとして，最もわかりやすいものだ。とにかく本を開いて，読ませてみればわかることだから。僕の場合は“表現の能力”の領域の「内容を伝えることを意識して，教科書の音読ができる」という規準を掲げている。もちろんここでいう「教科書」とは，「本文」のことである。

音読練習では，モデルの提示から個々の生徒の音読まで段階的な指導が重要になる。「全体から個へ」という原則をふまえて，毎時間，練習時間を確保したい。

4. 本文で考える

本文には文化の違いや社会的背景や人物を紹介したり，ドキュメンタリーとして問題的をしたりといった，英語学習を立体的に，奥深くしていく使命がある。中学校段階でどこまでが必要かという考え方もあるが，一方入門期だからこそ本物が大切だという考え方もある。教師の関わり方で，ほとんど全てが決まってくる部分だ。平和でも，差別でも，社会問題でも，取り上げすぎれば英語の授業の時間だけでは収まりがつかないことは明白である。では，何もしないでいいのかという悩みは常にある。少なくとも「問題提起」として投げかけておくことはできるはずだ。先にオーラル・イントロダクションは，英語の使っての表現方法を具体的に示す絶好のタイミングであると述べた。そこに教科書で使われているのと違う写真が一枚入ったらどうだろうか。生徒がその内容を再現するのに，自分で探してきた写真を一枚入れたらどうだろうか。そのような生徒だったら，いつかその話題に自分の意見を述べる機会があったときにどうするだろうか。そう考えると本文の題材をどのように扱っていくか，そしてどう発展させていくかという楽しい悩みは尽きない。

特集 教科書の徹底活用

コミュニケーション能力の育成を目指す授業

―基本文（文型・文法）の定着から―

日墨滋之
（東京学芸大学附属世田谷中学校）

1. はじめに

コミュニケーション能力の育成を目指す授業においては，コミュニケーション活動を支えるうえで基礎的な文型，文法の練習はきわめて大切なことと思う。実践例も示しながら考えてみたい。

2. コミュニケーション能力を育成するために ―教科書構成を踏まえた段階的な指導

コミュニケーション活動にはいくつかの段階があると思う。第一段階は，コミュニケーション活動の基礎をなす語彙，文法，文型の学習であり，この型を身につけるいわゆる機械的な練習（mechanical drills）が必要となる。この機械的な練習を経て，次に友だちと会話し，情報のやり取りをするなど実際に使ってみる練習（meaningful drills）に繋がり，最終段階の練習（communicative drills）へと発展していくのではないかと思う。

NEW CROWN English Series（以下, *NC*）では，各 section に基礎・基本に焦点を当てた CHECK IT が設けられている。CHECK IT は文型や文法事項の導入として使用され，導入後は練習として活用することができる。この練習を受けて，各課の終わりには，section 対応の USE IT が設けられている。この USE IT では，CHECK IT の練習で学習した言語材料を用いて，具体的な場面や状況で情報のやり取りを行う活動が用意されている。さらに，USE IT を受けて, DO IT の活動が用意されている。この活動は英語を使ってコミュニケーション活動を行う段階であり，コミュニケーション能力を鍛える活動が準備されている。*NC* には，次図に示すように段階を追ってコミュニケーション活動を指導する配慮がなされている。

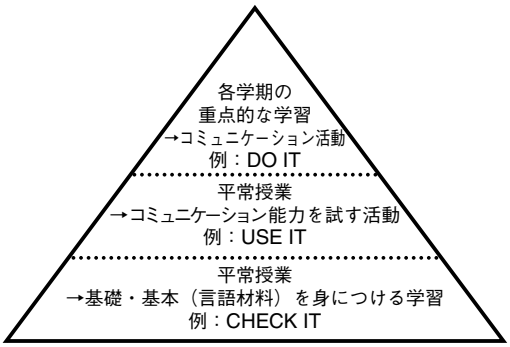


図 CHECK IT から USE IT，DO IT への段階的指導

3. CHECK IT から USE IT, そして DO IT への具体的な指導方法

NC の５課では，登場人物の久美が，樹木医になりたいという将来の夢についてスピーチをし，不定詞を学習する。この課を例に一連の指導過程を追う。

（1）CHECK IT（*NC* 2, L5, § 1）

以下に教室で行う新出文法事項の導入と練習，そして文法のまとめまでを示す。指導書付属の音声 CD を使用しないで，教師が行う指導例である。

①聞いてみよう

・教師の英語を聞かせ，どの絵について説明しているか聞き取らす。

T: I'm going to tell you three different sentences. Which sentence describes Picture A? Which sentence describes Picture B? Which

sentence describes Picture C? Write the number of each sentence in the bracket for each picture.

Point, I want to travel around the world.

No. 1, I want to speak Spanish.

No. 2, I want to write a book.

No. 3, I want to live by the sea.

・答え合わせと説明

T: Can I have the answer for Picture A, Ken?（S: One.）Right. Can I have the answer for Picture B, Kumi?（S: No. 3.）. That's right.（Cの絵についても答えを確認。）

T: A「私はスペイン語を話したい」と言うときには，want to speak を使って，I want to speak Spanish. と言う。B「私は海のそばに住みたい」と言うときには，want to live を使って，I want to live by the sea. と言う。（Cも同様に確認。）

②話してみよう

T: This time, please repeat the sentences after me.（Point の絵を指し）I want to travel around the world. Everyone.（Everyone. の合図で，生徒は教師の後についてsentence を繰り返す。）（Aの絵を指しながら）I want to speak Spanish. Everyone.（S: I want to speak Spanish.）（B, C の絵についても同様に行う。）

T: This time I'm going to give you some cues. Make sentences.（教師の cue を聞いて，イラストの描写をする。教師と生徒の発話を示す。）

T:（Point の絵を指し）"travel around the world". Everyone, make a sentence.（S: I want to travel around the world.）

T:（A の絵を指し）"speak Spanish". Everyone, make a sentence.（S: I want to speak Spanish.）Yuki.（個人を指名。指名された生徒は sentence を言う。）Everyone.（Everyone. と言われたら生徒全員で sentence を復唱。）＜以下省略＞　最後に，教師はそれぞれの絵を指し，生徒だけで言わせる。教師は cue を言わない。

・巻末の「文法のまとめ」を参考に，要点を板書する。

(2) USE IT

Section 1 を受け，USE IT では，下記のように教科書巻末付録の「職業」（語彙一覧）も参考に，各自の将来の夢を友だちと会話する class work が用意されている。この情報のやり取りを大切にしたい。

1 将来の夢を話してみよう

例にならって，将来どんな職業につきたいかを友だちに聞いて，その結果を下の表に書いてみよう。

Q 自分: What's your dream?
自分: I want to be a teacher.
自分: That's nice.

友だちの名前	Q 自分			
将来の夢	teacher（先生）			

USE IT は CHECK IT の活動後に，行ってもよいし，次の時間に前時の復習として扱うこともできる。

・まず，付録の「職業」の単語の発音練習を行う。

・次に，将来，生徒がつきたいと思う職業を選択させる。

・例の対話文を使用し，友だちと対話させる。このとき，スピーディーに行うためにも制限時間を設ける。日本語を使用しないことにも留意させる。I beg your pardon?やHow do you spell actor?などの表現も練習し，必要に応じて使用させたい。

(3) DO IT

DO IT では，本文や，雛形のスピーチを参考に自分の将来の夢を書くタスクがあり，TRY では，実際にスピーチを行うタスクも用意されている。USE IT をさらに推し進めたコミュニケーション活動といえる。

年間指導計画に，２学期の重点活動として，実際にスピーチを行い，評価する活動として位置づけておくことが大切であり，さもないと時間の都合で生徒にチャレンジさせることができないなどということにもなりかねない。原稿を読むのではなく，暗記して言えるようになるまで練習させたいものである。

4. おわりに

コミュニケーション能力の育成を考えるときに，CHECK IT から USE IT，そして DO IT への一連の指導を意識して授業に向かいたい。

特集 教科書の徹底活用

教科書を創造的に縦横無尽に使おう

室井美稚子
（木更津工業高等専門学校）

1. はじめに

「教科書を縦横無尽に使うって？　どんな風に？」と思われるでしょう。ここではあえて，「ほんとにできるの？」と思われるようなことをブレイン・ストーミング的に提案してみました。学年は関係なく行える活動です。

「時間がぎりぎりなのに，そんなことできるわけない」と思われるでしょうが，まずは少しだけ時間を生み出してみてください。実際に行ってみると，クラスの雰囲気が変わり，かえって英語への関心が高まり，授業が行いやすくなること請け合いです。

2. アクティビティとフォーメーションの紹介

■ Which picture is that? ■

1. 教科書の使う箇所
　表見開きの写真
2. 使う時期
　特になし
3. 活動の単位
　ペア・ワークまたはグループ・ワーク
4. 活動の展開
　・表の見返しの写真を各生徒が開く。
　・生徒Aが任意の1枚について，英語で説明する。
　　ex. There are three people. They are sitting.
　・他の生徒が指をさして当てる。その後，役割を代わって続ける。

■ Who says this? ■

1. 教科書の使う箇所
　教科書の本文中のセリフ
2. 使う時期
　復習（学期や学年の終わり）
3. 活動の単位
　ペア・ワークまたはグループ・ワーク
4. 活動の展開
　・その学期や学年で学習した内容から，自分の好きなセリフを選んで，ノートかA4／B5用紙の4分の1の紙に書く。
　・周りの人に選んだページを悟られないように注意する。
　・ノートに書いた場合は口頭で，当て合いをする。（口頭の場合は音読の練習ともなる）
　・紙に書いた場合は，相互に回してその下に解答を書かせる。解答欄はグループの場合，人数分必要である。

■What page (is that on)?■

1. 教科書の使う箇所
　教科書の挿絵
2. 使う時期
　復習（学期や学年の終わり）
3. 活動の単位
　ペア・ワークまたはグループ・ワーク
4. 活動の展開
　・生徒Aが任意のページの挿絵について，どのページを見ているかを悟られないようにして説明する。
　　ex.（Q）Kumi and Paul are talking. You can see two photos too. There are two women and dogs. What page?
　（A）It's on page 60!
　・何年生でも，文章を作れなくても，単語の羅列でよく，情報が伝達できる楽しみを感じてほしい。

・他の生徒が当てる。

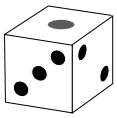
■Who do you like best?■

1. 教科書の使う箇所
　教科書の本文
2. 使う時期
　復習（学期や学年の終わり）
3. 活動の単位
　グループ・ワーク
4. 活動の展開
　・生徒Aが好きな登場人物を頭に浮かべる。
　・その人物の名前以外の情報を他の生徒が尋ねる。
　・生徒AがYes. / No.で答えて，他の生徒が当てる。
　・生徒Bが同様に行い，続ける。何人かが同じ登場人物がよいと思っているなど，グループ内での共感を高めたりしつつ，登場人物へ親しみをもってもらう。

■What will happen next?■

1. 教科書の使う箇所
　教科書の各課
2. 使う時期
　各課の終了時
3. 活動の単位
　グループ・ワーク
4. 活動の展開
　・その課の後日談を作る。
　・日本語と英語を混ぜて発表してもよい。
　・グループごとに発表して，評価し合う。
　・紙芝居風やスキットにできればなお面白く，その話から読み取りの深さが類推できる。

■サイコロ単語テスト■



1. 教科書の使う箇所
　教科書全部
2. 使う時期
　学年の終わり
3. 活動の単位
　ペア・ワークまたはグループ・ワーク
4. 活動の展開
　・サイコロをペアかグループで1つ用意する。
　・生徒Aがサイコロを振り，例えば6が出たら6ページに進み，そのページの単語を1つ選び意味を尋ねる。
　・相手が答えられれば，相手は6ページ分進める。
　・相手が答えられなければ，自分がまた6ページ進める。
　・生徒Bがサイコロを振って，同じように進める。
　・生徒の学力に応じて，単語ではなく，その単語を使った文を作る課題でもよい。
　・時間を切って，たくさんページを進んだほうが勝ちとする。
　・単語が何も書いてないページが出たら，もう一度サイコロを振ることができる。

■同心円のフォーメーション■

さてここで，ペアやグループでの活動を行わせる椅子や机の配置について考えてみましょう。机をくっつけて島にするオーソドックスな方法もありますし，ペアの場合，二重のサークルを作って向かい合わせて話す方法（同心円のフォーメーション）もあります。一人目と話した後，外側の人は2〜3つくらい席をずれて，同じ事を言うのもよいでしょう。名前以外の情報を言って相手に当ててもらう「好きな登場人物」がテーマのときは，後者の方が，活気が出るかもしれません。

以上，6つのアクティビティと同心円のフォーメーションを紹介しました。ちょっと机上の空論というか，突拍子のないものもあるでしょう。全部行うわけではなく，「ちょっとやってみるかなあ」と自分の生徒の顔が浮かんだ活動にチャレンジしてみませんか。

3. おわりに

マンネリ化したとき，ちょっとした変化が次の変化を呼び寄せることがあります。「先生もいろいろ工夫して，授業を面白くしようとしているんだなあ」と生徒が思ってくれるだけでも，英語に対する取り組む姿勢に違いが生じるからでしょう。

Please give it a try!

英語教師のための
基礎講座

自分の頭で考えませんか

斎藤栄二　Saito Eiji
（京都外国語大学／関西大学英語教育連環センター）

1　みなさんどう思いますか

マニュアル時代
↓
どこかに答えがある
↓
そんなことはありません

これはある研究会でのやりとりです。教え方のレベルアップに関するワークショップのあと，パネルディスカッションとなりました。テーマは「今後の研修に望むこと」です。

一人の若い教師が手をあげて発言し始めました。

「例えば，教科書のあるページを指導するとする。そうすると，そのページの指導目標は何か。それを話してほしい。そのあとその目標に従ってどう指導したらよいのか。まず導入の仕方，新出単語の扱い方，文法項目の説明の仕方，それらの導入に続いて，そのあとの授業の展開の仕方，音読のさせ方や，指名の仕方などを話してほしい」

この先生は教えた経験も2，3年はありそうなので話も具体的で詳しい。そのあとさらに続きます。

「最後に評価です。このページの学習をした生徒の評価はどうするのか，その項目や評価の仕方を話してほしい」

みなさんはこの話をどう思いますか。もっともなことだと思いますか。それともどこか変だと思いますか。助言者席に座っていた私は大袈裟に言うとやや気分がわるくなってきました。

「おい，おい，君は誰かに君の家庭教師をさせる気か」

2　説明の英語の文をピクチャーカードの裏に印刷しておいてほしい

私はもう少し若いときは，よく飛び込んで「モデル授業」というものをやりました。

あるときの授業は，中学2年生が対象で，私は教科書会社から出している大型のピクチャーカードを3枚ほど教室に持って行きました。これを紙芝居ふうに使いながら oral interaction をやりました。教科書のその日のページに載っている文章の数はおそらく6～7 sentences くらいであったと思います。その内容を理解させるために，私は oral interaction では40以上の文を聞かせたと思います。この授業のデモンストレーションを終わったあとで，例によって授業研究会となりました。そのとき最初に出てきた質問は，

「先生は生徒に絵を見せながら，わかりやすい易しい英語の文で，今日の内容を説明していかれました。あの英語の文はどうなさったのですか？」

という質問です。私の返事は，

「これらの英文は，自分で書いて大体覚えて授業に臨みました」

と言いながら，ピクチャーカードを裏返して，そこにセロテープ等で貼っておいた私の手書きのメモをお見せしました。そのときに出てきた質問は，私の予想していなかったものです。

「先生，その英語の文をピクチャーカードの裏に印刷しておいてもらえませんか」

この質問のあと何年か経ちましたが，現在では教科書会社が出しているピクチャーカードの裏には oral interaction 用の英文が印刷されるようになりました。

みなさんはこれをどう思いますか。「便利なんだから結構じゃないの」と思うほうですか。それとも

「ちょっとおかしいぞ」と思うほうですか。おそらく「ちょっとおかしいぞ」派は少数派でしょう。でも私はその少数派なのです。

3 問題点は何なのか

1 で述べた若い教師の要望，そして **2** で述べたピクチャーカードの件も，私は「これはおかしいぞ」と反応したと書きました。なぜでしょうか。両方の先生にいえるのは，「どこかに教え方についてはマニュアルとしてきちんと書かれたものがあるはずだ」というような信念があるからです。そのマニュアルに従えば，よい授業ができると考えているのではないでしょうか。ところがそんなことでよい授業ができるわけはありません。

ついでですが，私が教師になったころは教科書についてきた教師用指導書は 1 冊だけでした。今では教科書のマニュアルを見ると，*NEW CROWN* の場合は①指導・評価編 ②解説・活用編 ③ Team-Teaching Manual ④言語活動ワークシート集 ⑤ Teacher's Book ⑥音声 CD ／指導用 CD-ROM で，私が教師になったころの 6 倍です。

ここで急いで断っておきますが，私は「昔の方がよかった」などという気持ちは毛頭ありません。「よかったこともあるしわるかったこともある」。事柄によりけりです。でも過重なマニュアル依存については，私は警告を発しておきたいと思っています。

こういうマニュアルを提供するようになってきたのは，常日頃教えている先生から，例えば「ティームティーチングでの教え方について英語でやり取りするのは大変だから，ALT に読んでもらえば，今日の授業のねらいや進め方がわかる英文で書いた ALT マニュアルがあったらと思う」などという要望がでてくる。その総和として今日の状況になってきているのです。そういう教材作成に私は 30 年近くも携わっているわけですから，マニュアル時代を作ってきた責任の一端は私にもあるといってよいでしょう。それどころか私は多くの研究会で，若い先生方に「まず，これらのマニュアルをきっちと読みこなしてほしい」と何度か言ってきました。

なぜならしっかりとした背景的知識もなく，無防備で教室に出かけて行く先生が，決して少なくないことを知っているからなのです。「マニュアル」を精読すれば，教えるうえでのヒントはかなり得られます。だからマニュアルの重要性を否定する気持ちは毛頭ありません。

ただ，ここからが分かれ道です。「マニュアルをちゃんと読んでください」ということと，「マニュアル通りに授業をやってください」ということは全然別物です。

4 頭を使おう

教育や授業の現場は，マニュアル通りにやればうまくいく，というほど生易しいものではありません。一人ひとりの生徒は生きた身体と心を持ち，その意志によって動きます。それは“ホリエモン”ではありませんが「すべて想定内」などというわけにはいきません。突然想定外のことにぶつかるのです。

先日見ていたある授業のことです。そのクラスの英語の先生は「本日の目的は三単現の s です」ということで指導を始めました。その先生が「ここでは動詞に s をつけます」と言いました。そうしたら後ろの方の生徒が「あ，複数の s だ」と言いました。その声は先生にも届いたはずです。しかしこの発言は想定外だったのか，授業はそのまま淡々と進みました。私は教室の後ろで見ていたのですが「あ，ここは 1 つのポイントだ」と心の中で叫んでいたのです。ここで，三単現の s と複数の s を明瞭にわからせる指導をしておかなければ，あの生徒にとっては，これからかなりの間，三単現の s と複数の s を，ごっちゃにするだろうということが，私には見えます。こういう場合どう対応するかということはマニュアルには書いてありません。これは一例に過ぎませんが，授業はある意味ではこういう障害物を乗り越える仕事です。そのとき教師であるあなたは，マニュアル頼りにできないあなた自身の対応の力が試されるのです。

マニュアルに浸り，マニュアルを超えよ

自分の頭で乗り切る力を育てよう。これが今回の結論です。そのためにはあなたの創造力が必要です。創造的でない教師が生徒に向かって「創造的であれ」などと言っている図は，私にとってはマンガ以外の何ものでもありません。少し言いすぎたかもしれません。けれども一緒にがんばりましょう。

Dr Negishi's Assessment Clinic
評価クリニック

コミュニカティブ・テスティングへの挑戦

根岸 雅史 Negishi Masashi
（東京外国語大学）

1.『コミュニカティブ・テスティングへの挑戦』

この度，『コミュニカティブ・テスティングへの挑戦』(三省堂)という本が出版されることになった。そこで，少しこの本を紹介させていただきたい。この本の柱となっているのは，「東京都中学校英語教育研究会（都中英研，以下中英研と略す)」調査部の「英語コミュニケーションテスト」である。私がこのテスト作りに関わってから，10 年近くになる。

当初は，それぞれのテスティング・ポイントを明確にすること，テスト・デザインやスペック（test specifications）を作ることを強調したように思う。これらの重要性を先生方に理解していただくのにも，数年はかかった。しかし，これらがある程度理解されるようになると，今度は「コミュニケーション能力を測るテスト」を作りたいということになった。

中英研の先生方に「コミュニカティブ・テスティング」を仕掛けてみると，その反応には目を見張るものがあった。「コミュニカティブ・テスティング」作りは，きわめて創造的な活動である。ひとたび「コミュニカティブ・テスティング」という概念に触れると，先生方からはさまざまなアイディアが湧いてきた。そこには，本当におもしろいと思える問題がたくさんあった。きっと普段の授業も，ユニークなアイディアであふれているのだろう。そのアイディアが，「コミュニカティブ・テスティング」という概念に触れ，テストへと姿を変えていったのかもしれない。

2. コミュニカティブ・テスティングとは？

従来の英語のテストの多くは，現実のコミュニケーションとはかなり異なったものであったといえる。例えば，ライティング・テストでは，「あなたの好きなスポーツについて書きなさい」というような「自由作文」がよく出題されてきた。しかし，このような問題では，この文章を誰に向けて書くのかが明らかにされておらず，その文章を書く目的も不明である。現実の生活では，誰に読まれるかのあてもない文章を書いたりすることはまずないだろう。

これに対してコミュニカティブ・テスティングでは，真のコミュニケーション能力を測るために，なるべく現実的なコミュニケーションをテストの中で再現しようとしている。こうした本物らしさを「オーセンティシティー」というが，このオーセンティシティーには，「タスク」のオーセンティシティーと「テキスト（スクリプト)」のオーセンティシティーとがある。前者は，そのタスクが実際に生活で行われるようなタスクとなっているかという観点であり，後者はそのテキスト（スクリプト）が実際の生活で出くわすようなものとなっているかという観点である。上で述べた「あなたの好きなスポーツについて書きなさい」などという問題は，タスクのオーセンティシティーが低いことになる。

では，コミュニカティブなライティングのテストの実例を，上掲書から見てみよう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

アメリカに帰国することになった Jill（ジル）先生にクラスで色紙を作り，渡すことにしました。解答欄の Hi, Jill. から Goodbye の間に，3 文以上の英文で書きなさい。ただし，全部で 10 語以上の語を使うこと。あなたの感謝の気持ちを伝えてください。

注：「.」や「,」，「?」は語数に数えません。
I have a book. は 4 語と数えます。

Hi, Jill. _____

_____

_____

Goodbye, XXXXX

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

この問題では，どういう状況で，誰に向かって，何のために英文を書かなければならないかが明らかになっている。こうした問題であれば，状況が明確なため，どのようなことを書かなければならないかが自然と決まってくる。また，何の目的もなく英文を書いている訳ではないので，生徒よりも楽しく取り組むことができるだろう。

3. コミュニカティブ・テスティングを作る

「コミュニカティブ・テスティング」における問題作りは，創造的な作業である。そして，この作業を成功させるには，日々のさまざまな努力が重要である。まず，いいタスクを思いつくには，「生徒が普段英語でどんなタスクをしているか」ということを常に意識していなければならない。また，「英語」での言語活動に限らず，「日本語」での言語活動も視野に入れておくべきだろう。その意味では，生徒の「生活全般」にアンテナを張っておく必要がある。

また，本当の意味でのおもしろい，コミュニカティブな問題を作るためには，問題作成者としての教師自身が，日常的に英語をコミュニケーションのために使っている必要がある。授業のためだけでなく，日頃から自分自身のために，英語を読んだり，聞いたり，話したり，書いたりしていることが重要である。英語のレシピを読んで実際に料理をしたとか，誰かに手紙を書いて返事をもらったというような経験が決定的に大事なのである。こうしたオーセンティックな英語経験を持たないと，本物らしい英語を書いたり話したりすることはできないし，いいタスクも思いつかない。

最後に，2006 年度の私のゼミでさまざまなライティング・タスクを試みてみたので，それらを紹介する。オーストラリアの博物館や水族館にメールを出して，質問への回答をもらったり，カナダのホテルにオーロラ・ツアーについての質問をして，返事をもらったりした学生がいた。インターネットの質問コーナーに質問を出した学生は，たくさんの人から回答をもらった。英語学習のためのいいウェブサイトに関する質問には，“you seem to be pretty well at it already”などという返事をもらったが，きっと嬉しかったに違いない。また，学生の中には，書いた文章が曖昧であったために，相手から質問の意図を確認されたものもいた。これなどは，教室の中で単に文法的な誤りを指摘されるより，はるかに文法的な正確さの重要性に気づかせてくれる体験であっただろう。

こうして実際に英語を書いて誰かに送ることで，相手から返事をもらうことができる。これは英語を学ぶものが（生徒のみならず教師も）共有する喜びであろう。こうした喜びの経験が，コミュニカティブなテスト作りにつながっていくのである。

もちろん，ネットの向こうには現実の世界があるので，生徒にこうした活動をやらせる場合には，トラブルに巻き込まれないように十分注意しておく必要がある。また，相手によっては何度メールを出しても返事が来ないという「現実」もある。

今回の単行本にも，ここに紹介したような事例がたくさん掲載されている。また，こうしたテスト問題の実例のほかに，スピーキング・テストの実例，さらには言語テストの一般的な知識や，定期テスト作りの原則，テストの項目分析の結果なども入っている。テスト作りの参考にしていただければ幸いである。

授業レポート
CLASS REPORT

楽しくて力のつく授業［2］

―リスニング力をつける指導―

二宮正男　Ninomiya Masao　（東京都新宿区立西戸山中学校）

①はじめに

リスニング力をつけるためにどんな指導をしているだろうか。授業を英語で行ったり，授業中にリスニング問題をやっている先生も多いだろう。またALT（Assistant Language Teacher）との面接練習を取り入れたり，英語の歌を取り入れている先生もいるだろう。しかし，読解力や文法力をつけるための練習に比べ，その回数や量は少なくはないだろうか。

②指導と評価の一体化

授業中に教科書のリスニング問題をやっただけでは，生徒には定期テスト前にどんなリスニングの学習をすればよいかわからない。

「教えたことを評価する。教えていないことは評価しない。」しかし，リスニングに対しては指導と評価が一体化していないことが多い。

リスニング問題は解答を○×か記号で選ばせる形式がほとんどである。CDなどを聞かせて答え合わせをし，それで練習を終わらせてはいないだろうか。しかし，答え合わせをしただけでは指導したことにならない。それだけで済ませてしまっては，生徒がどうして聞き取れなかったのか，何が原因かがわからないままになってしまう。

それでは，どのようにリスニングの練習をすれば指導したことになるのだろうか。それには，どのような到達目標を立てて評価するのかが明確でなければならない。今回の観点別評価の「聞くことの評価規準」は次の２点である。

（ア）正しく聞き取る

（イ）具体的な内容や大切な部分を適切に聞き取る（適切な応答も含む）

この両方ができるように，リスニング練習をさせていかなければならない。

③文字による内容理解

聞き取れない主な原因として次の３点があげられる。

（1）話される英語の速度が速すぎる

（2）英語の音・音変化を正しく認識していない

（3）語彙不足のため内容を正しく理解できない

文字に比べて音声は瞬時に消えていってしまうので，話される英語が速すぎると理解できない。そこで生徒に文字を見せて自分のペースで理解させてみればよい。そのためには，教師は答え合わせのあと，スクリプトを配って生徒に自分のペースで内容理解させるとよい。声を出して音読させることも大切である。それでも内容を理解できない生徒の聞き取れなかった原因は，速度や音認識のせいではない。英語の意味がわからなかったからだと自分でも理解できる。つまり，英文を「読んでわからないものは聞いてもわからない」のだ。

リスニングの練習で，生徒が自分のつまずきを理解して初めて指導したといえるのではないか。再度音声を聞かせても間違う生徒には，ぜひスクリプトを読ませて内容確認をさせてほしい。つまずきに気づいて，次にできるようになったときの自信がやる気につながるのである。

④リスニング力をつけるための練習を計画する

リスニングの力をつけために，以下の４種類の練習ができるよう計画する必要がある。

（1）内容理解の練習

内容理解の練習には，絵を選ばせる練習がある。しかし，絵で表現しにくい内容も多いので，キーワードを書かせる練習がよい。ある程度まとまった文章を聞かせてキーワードをメモさせる練習を積み重ねると，大意を把握する力がついてくる。

しかし，入門期の生徒にとってキーワードをメモ

するのは難しく，最初は聞こえてきた英語を全部書こうとしてしまう。何がキーワードかがわかるようになるためには，speaking 練習のときに原稿を書かせず，黒板に提示したキーワードだけを使って speech をする練習を積み重ねておくとよい。この活動を毎時間繰り返すことによって，listening strategy が身について，リスニング音声中のキーワードを上手にメモできるようになる。

(2) 正確に聞き取る練習

音声を単語レベルまで正確に聞き取らせる練習には，shadowing や dictation が効果的である。

shadowing とは聞こえてくる音を即座に真似をして声に出す活動で，同時通訳者養成訓練においてしばしば行われる。私は次のように 3 段階の shadowing の練習方法を行っている。

①教科書の本文を見ながら，流れてくる CD に合わせて parallel reading する。
②次に教科書の本文を見ないで，CD の英語を追いかけるように shadowing する。
③ときどき使用教科書以外のものを使い，英文を見ないで shadowing する。あとでスクリプトを配ってもう一度聞く。このとき，1 学年下の教材（教科書）を利用すると，音声ばかりを追いかけて内容理解まで及ばないということを防ぐことができる。

生徒には①と②の練習方法を家庭学習としても行うように言っている。教科書の音声 CD を希望者に購入させ，家庭でも練習できるようにしている。

dictation も正確な聞き取り練習に効果的である。ただ，shadowing と違って spelling をすべて正しく書き取るのは難しい上に，教師側も採点が面倒であることから，毎時間継続して実施するのが難しいという問題点がある。

そこで, dictation を Last Sentence Dictation（LSD）で行っている先生方も多いと思う。聞かせるパッセージとしては，既習の教科書本文を使うと復習にもなる。

> I study English. So I can speak it a little. Paul studies Japanese. So he can speak it a little.
> I teach Japanese to Paul. He teaches English to me. We help each other.

（*NEW CROWN* 1 年 p.78, 2006）

①まず，教師はこのページを最初から読み上げて任意の箇所，例えば key sentence である So he can speak it a little. を読み終わった時点で読むのを止める。
②生徒は教師が読み上げた最後の 1 文 So he can speak it a little. だけを書き取る。

私は 3 年生の後半の授業では，DVD で映画の一場面を見せてストップさせ，最後の 1 文を書き取らせる活動も取り入れている。例えば，次の会話は『ローマの休日』で, ジョーのアパートを出た王女が, アパートの中庭でまたジョーに会う場面である。

> Joe: Well... small world!
> Princess: Yes. I almost forgot, can you lend me some money?
> Joe: Oh, yeah... that's right, you didn't have any last night, did you?

（『ローマの休日』, ウィリアム・ワイラー, パラマウント ホーム エンタテインメント ジャパン，1953 年，米国）

①この場面は簡単な場面なので，字幕なしで見せる（生徒の実態によっては，最初に日本語の字幕付きで見せて内容理解させてから，再度字幕なしで同じ場面を視聴する）。
②教師は that's right. の台詞で映画をストップする。
③生徒は最後の 1 文 that's right. だけを書き取る。
④教師は DVD の字幕を英語にしてもう一度この場面を字幕付きで見せて，生徒に答え合わせをさせる（生徒の実態によっては 1 つ前のジョーの台詞，can you lend me some money? を書かせてもよい）。

(3) 速さに慣れる練習

リスニングは聞くだけでは力がつかなくて，リーディングによる内容理解も必要なことは述べてきた。ここではさらに，「話せることは聞き取れる」ということにも注目したい。

昨秋の全英連大会で来日した英国バーミンガム大学 の Dr. Richard T. Cauldwell は “Listening and

speaking are both sides of a coin.” と繰り返し言っている。彼の「英文を速度の違う読み方で３回読む練習」を紹介しよう。

① １回目はゆっくり正確に読む
② ２回目はできるだけ速く読む
③ ３回目に自然な速度で読む

まずゆっくり正確に発音できるようにしてから次に速く読むと，３回目は自然な速さのはずなのに随分ゆっくり読んでいるように感じる。

このような読む練習を行ってから音声を聞くと，どのような英文でも聞き取れるようになる。リスニングもスピーキングもどちらかだけが個別に伸びるのではなく，両者は同時に伸びていく能力なのである。

(4) Authentic な教材での応用練習

多くの生徒は，教室で「日本人教師」と「ALT」と「教科書の音声 CD」の３種類の英語に接するだけではないだろうか。そこで ALT を活用して教材を作ってもらうとよい。

学校に来ている ALT に教科書を録音してもらうだけでも，生徒にとっていつも聞いている教科書の音声 CD の英語と違った魅力的な教材となる。

また，授業中に話せばその場限りで終わりになってしまう ALT の自己紹介などを録音しておいて，半年後や１年後の学年に利用する方法もある。

右上の表は，*NEW CROWN* をもとにした，いつでも使えるテーマである。西戸山中学校には，このテーマ以外にも次のような海外の行事や文化を１年生レベルから３年生レベルまでにわけて録音したテープがある。

１学期 Independence Day
２学期 Halloween，Thanksgiving Day，Christmas
３学期 New Year’s Day，St. Valentine’s Day

アメリカ合衆国出身の ALT に録音してもらったテープが多いが，その他の国出身の ALT の教材も増やし，リスニングを通して生徒にさまざまな異文化を理解させていきたいと思っている。また，そのスクリプトを印刷して生徒に配ればリーディング教材としても活用できる。最後に示したものは本校の ALT の Mr. Minning に作成してもらったものである。

⑤ おわりに

区や市の英語部会で，このような教材を共有することを提案したい。複数の ALT の音声教材を集めて，楽しくリスニング力を伸ばしていくというのはいかがだろうか。

ALT に録音してもらうテーマ

１年	自己紹介（名前，出身国，得意な遊びやスポーツ，好きなこと・もの），家族・友だち・有名人の紹介，海外の学校生活，できること・できないこと，冬休みのできごと
２年	過去形で自己紹介（出身国，スポーツ，季節など），週末や夏休みの予定，学校や町にあるもの・あったもの，将来の夢，海外の紹介
３年	現在完了形で自己紹介，行ってみたい地域・場所とその理由，中学校生活の思い出

（２年生レベル）

Brian’s Christmas

December 25th is one of my favorite days because it’s Christmas! On Christmas, people can relax with their family, give presents, and have a big Christmas dinner. So I think that Christmas is a fun and important day.

In America, children love Christmas because they get presents from Santa Claus. I got many nice presents when I was a child. When I was twelve, I got a new bike! I think that it was a great present.

On the night of December 24th, Santa visits children around the world to give them their presents. But he doesn’t give presents to all children. If a child is good, Santa will give the child a present. But if a child is bad, he won’t give the child a present.

Many families have a big Christmas tree in their house. There are many beautiful lights and decorations on the tree. I think Christmas trees are very beautiful at night. On Christmas morning, children sit under the tree and open their presents. Later, everyone enjoys a big Christmas dinner. There is turkey, ham, cake, and much more! It is a great day for everyone to enjoy.

小学校英語 Just Now

「気づき Awareness」を教育目標にする英語活動

下 薫　Julie Kaoru Shimo
（マジカルキッズ英語研究所代表／茨城大学非常勤講師）

1. 先生たちと考える小学校英語

現在私は３校の大学で小学校英語に関連する講座を受け持っている。受講生は中学，高校教師を志望する英語専科の学生だけでなく，幼稚園や小学校教師を目指す他専科の学生も多い。学生ボランティアとして小学校の英語活動を体験する人も年々増えているので，講座では具体例を出しながら小学校英語のメリット，デメリットを論じることができる。講座開始時の学生たちが出す活動案は，単語カードを使った反復練習やフルーツバスケットなどのゲームが目立つが，終盤の模擬授業では，国際理解を取り入れたり，他教科と連動させるなど，小学校ならではの英語活動を披露するようになる。

一方，現職の先生方への指導としては，茨城県内の小学校を中心に年間指導計画の作成や教師研修を手伝わせていただいている。このように未来そして現職の先生たちと共に小学校英語を研究しているが，講座や研修のはじめに受講者に行う質問は「何のために子どもに英語を教えるのか」である。この問いの答えは，１つ１つの英語活動の教育目標に表れる。活動を計画する際，子どもの年齢と興味関心を理解し，教育目標を設定することが大変重要になると思う。

2.「目標」を立てる

幼児・児童の早い時期から外国語学習を開始する利点として，次の２つの壁が比較的容易に乗り越えられることが考えられる。

1）言語音声の壁
2）視野を狭める心の壁

子どもは小学校の英語活動を通して，日本語にはない未知の「音」の違いに気づく。また世界の国々の「文化や習慣」の違いにも気づくことができる。カリキュラムもこの「気づき awareness」をもとに「言語目標」と「国際理解目標」の２つの目標を立てて，学年に応じて段階を踏んだ学習計画を立てる必要がある。例えばテーマを設定する際，低学年は「自己に気づく self-awareness」, 中学年は「他者に気づく awareness of others」，高学年は「世界に気づく global awareness」とし，具体的なコミュニケーション活動として「自分について英語で話す」→「友だちに興味を持ち質疑応答をする」→「世界の人や文化を調べて発表する」など，子どもの年齢に合わせて活動に変化をつけ，低学年から高学年まで一貫した学習計画を立てることができるだろう。

3. All About Me から All Around Me へ

ここで，実際に小学校で行われているコミュニケーション活動を紹介する。

（1）低学年—自己に気づく self-awareness

低学年向の All About Me（自分のことを話す）は単元計画の後半で既習の英会話表現を用いて，自分の思いや考えを伝える活動である。円を作り，カードやスケッチブック（写真１）に描いた自己紹介の絵を見せながら発表する。

（発表例）My name is Lisa. I'm 8. I like melons.
I like pink. I love my family.

カードを作成する過程で自分の好き嫌いを確認し，友だちに英語で伝える。これにより自尊感情が深まり自己表現力も高まる。自尊感情を持った子ど

もは，情緒的にも安定し，他者を理解し受け入れることができると考えられる。

All About Me の発表で，グループやクラス全体で円になると，子どもは友だちとアイコンタクトをとるようになる（写真 2）。それにより相手の表情や反応を見ながら話すというコミュニケーションの基本姿勢を作ることができる。英語の発表を聞いてもらうことで，子どもは少しずつ英語に慣れ，自信を持つようになる。円になって座ると，誰もが円の中心から等間隔に位置し，また円の中央に立てば自らが中心的な存在にもなれる。円の中央におもちゃのマイクを置いて率先して発表させたり，マイクを順番に回して意識して大きな声で発表させるなど，円活動では積極的な発話を引き出す様々な工夫ができる。

All About Me（写真 1）
カードの例（カードをジャバラ状につなぎ合わせたもの）

Circle Activity（写真 2）

（2）中学年—他者に気づく awareness of others

Q&A（質疑応答）活動は，相手の話しを聞き，質問に答え，自分の感想や意見を言う会話のキャッチボールの練習である。月間テーマに合わせて Q&A カード（写真 3）を作成し集めていく。例えばリンゴの形をしたカードを毎月一人 1 枚ずつ作り，月間テーマに合わせて絵や単語を書き，リングに通して束にする。warm-up 時にペアになって，カードを見ながら次々と Q&A を行う。カードの保管は大きなりんごの木の絵にフックをつけてクラス全員分を掲示する。小学 4 年のクラスでは，「得意なこと」をテーマに can を使った Q&A が行われ，驚きや同意など，子どもの感想が自然に加えられた会話になっていた。

Q&A カード（写真 3）
Q&A カード フィッシュの例

"What can you do?"

"I can sing ABC Song." "I can, too."
"I can snowboard." "Wow!"
"I can swim 50 meters." "That's cool!"

（3）高学年向け—世界に気づく global awareness

自分のことが表現できたら，テーマを町，国，世界へと広げていきたい。All About Me から All Around Me（自分の回りこと）へ。1 つのテーマも学年ごとに広げていく事ができる。例えば「動物」であれば，身近にいる動物から，環境問題である絶滅危機にある動物まで，Pet & Farm Animals → Zoo Animals → Animals around the World → Endangered Animals と展開できる。世界地図を使った地図学習や「世界の食べ物，スポーツ，乗り物」など多文化理解を，社会科や調べ学習と連動させると，高学年の英語学習の動機付けにもなるだろう。

世界のことと平行して，日本についてもぜひ英語で紹介する機会を子どもたちに与えたい。岐阜市が使用している *KIDS CROWN GIFU CITY*（三省堂）に収録されている Things in Gifu City では，岐阜市のイラストマップを見ながら町の紹介を CD で聞くことができる。Q&A 形式の英文を聞きながら自分たちの町への理解を深め，調べ学習を通してオリジナルの英文で町を紹介することができるだろう。

4. 担任教師が作る「小学校英語」

小学校英語は小学生の言語習得の特徴や多文化に対する興味・関心を最大に考慮して，担任教師が中心となって行われる英語活動である。子ども一人ひとりの個性を理解する担任教師が計画し実施する英語活動は，英語という枠に留まらず，他教科連動，他学年との交流などヴァリエーションに富み，文字通り「小学校英語」という新しいジャンルを確立している。担任教師が試行錯誤の中，目の前の子どもたちのために計画し，実践した英語活動を拝見すると子どもに英語を教える真の答えが見えてくる。今後も先生方の実践を通して「何のために子どもに英語を教えるのか」を探っていきたい。

Reading Instruction

Ron Martin
(IEC, Waseda University)

Here is a definition of reading comprehension: "The process of extracting and constructing meaning through interaction and involvement with written language." (Block, Gambrell, Presley, 2002, pp. 23-24) It is not direct translation. Reading in a foreign language should be no different than reading in one's native language in regards to the approach taken. Readers should be supported to build upon what they know, and they should be supported to learn how to guess what they don't know.

When it comes to reading, there are three integral parts: the *reader*, the *text* and the *purpose*. Though it is obvious to say that vocabulary and grammar complexity influence the ease or difficulty of a text for a reader, the text type, the reader's background knowledge and the purpose also heavily influence the outcome of reading comprehension. For our students, imagine the difference between a textbook (*text*), a student (*reader*), and homework (*purpose*) versus a comic book (*text*), a teenager (*reader*) and pleasure (*purpose*). No matter the vocabulary or complexity, I propose that the latter defines a greater chance of reading comprehension. However, as teachers the former generally defines the reading context we face. In order to help our students succeed, break the reading process up into three parts: pre-reading, *during reading*, and *post-reading*.

Pre-Reading

Background knowledge, i.e., the knowledge each individual has based upon their individual history in life, is a source that should always be tapped into, especially before reading a text. Also, before reading, show the purpose for reading the text itself. Do this by asking students specific questions about the topic, have students create questions for other students based upon knowledge of what the text will be, show a picture and elicit students' background knowledge, show a picture and have students provide a title, have students draw a picture based upon a title or topic, or have students put parts of the text in correct order.

During Reading

While students read, it is important that they have a clear purpose when doing so. Teach students to check their comprehension of what they have read *as they read*. Have students predict what further information is yet to come. Lastly, have students highlight key areas or keywords pertaining to the purpose.

Post-Reading

A big mistake in reading instruction is to skip *post-reading*. *Post-reading* rewards the students for having given the effort to read the material. Without such a reward and chance for success, reading will become an unpopular task. Some ideas would be to have students answer the questions provided before reading, provide a new or alternative title, write an ending or a new ending, write what happens before the text begins, respond to the text in personal letter form or make a chart, table, graph or picture based upon information from the text.

Purpose

Read this example from Cambridge University Press: *Yesterday I saw the palgish flester gollining begrunt the bruck.*

Question: What was the flester doing, and where?

Make sure the tasks (*purpose*) encourage selective reading to show understanding of the main meaning and not just test understanding of unimportant details. The above example shows that there is no need to *comprehend* the sentence in order to answer the question. Reading without meaning undermines the development of an effective reading process.

英語教師のリソース
RESOURCES FOR ENGLISH TEACHERS

Hot Potatoes™でインターネット教材を作ってみよう

荒尾浩子　Arao Hiroko
（三重大学）

Hot Potatoes の JMatch で作成したマッチングの問題。学習者は右の英単語を左の意味を示す絵の横にドラッグして合わせる。
※ソフト自体は学校の先生が非営利目的の教育上使用する限りには無料です。

e-Learning の英語教育における活用が注目され久しくなります。先生方の中には生徒のニーズやレベル，予算，教材配布の利便性から自作のインターネット教材（Web 上で学ぶ教材）に関心をお持ちの方もいらっしゃるのではないでしょうか。今回ご紹介するのは Hot Potatoes™ という教材作成ソフトです。このソフトは Web 上からダウンロードでき，使い方さえマスターすれば誰でも簡単にインターネット教材が作成できますので是非お試し下さい。

まずは http://hotpot.uvic.ca/ からソフトをダウンロードします。作成できるエクササイズは 5 種類（① JCloze / ② JMatch / ③ JQuiz / ④ JCross / ⑤ JMix）があり，どれもインターアクティブに作動し画像を加え，文字や色を調整することが可能です。

① JCloze は穴埋め問題の作成です。テキストを打ち込み，隠したい部分を選び「Gap ボタン」を押すと自動的に穴ができヒントも作成できます。学習者はタイプして解答するのでスペルがおざなりになりません。② JMatch はマッチング問題の作成です。文字と文字の結びつけだけでなく絵と文字の組み合わせも可能です。自動的にシャッフルして左右バラバラに問題提示してくれます。学習者の解答法もスタンダードとドラッグ＆ドロップの 2 つあります。スタンダードは選択肢のボックスをドラッグして答えを選びます。ドラッグ＆ドロップのほうがより学習者はコントロール感を楽しめます（上記の写真）。ゲーム感覚で次々進んでいけるので知らぬ間に多くの問題に取り組めます。③ JQuiz は質問に答えるクイズ形式の問題作成です。多肢選択，ショートアンサー，これら 2 つを組み合わせたハイブリッド，正解が複数ある複数選択問題と 4 つのタイプがあります。多肢選択を例に挙げれば，問題文，4 つの選択肢の入力，正解へのチェック，各選択肢へのフィードバックコメントの入力のみが作業です。このコメントによって作成者はただ発問するだけでなくサポートしながら導き励ます促進者として関与できます。④ JCross はクロスワードクイズの作成です。マスに文字を入れ，手がかりとなる言葉を入力するだけです。また単語さえ入力すれば自動的に単語の並びを縦横作成が可能ですので大幅な時間削減となります。最後の⑤ JMix は並べ替え問題の作成です。文章レベルでも単語レベルでも可能です。文章レベルの場合なら単語を正しい順序に縦に入力するだけです。解答法は JMatch 同様，2 通りあります。ドラッグ＆ドロップの場合なら学習者はバラバラに並んだ単語を順番に選び解答欄にドラッグして置いていきます。学習者は，目で確認しながら並べていき納得いくまで何度もやり直しがききます。

すべてのエクササイズは得点を表示し連携させてページ提示できます。作成後はアップロードしてすぐ Web 上で使用可能です。自動的にエクササイズを統合し大規模にしたい場合は，ライセンスを購入し，The Masher というプログラムを使用します。作成した教材はインターネット教材として教室外での自習用としてはもちろん，教室内ではプロジェクターで映しクラス全体で活用することも有効です。何より使用が簡単であるというのは忙しい先生にとっては魅力です。複雑なものは長続きしません。このソフトを使用すればいつものワークシートと同じ手軽さで教材作成でき，修正，更新も簡単ですので，本当にお薦めです。

2007夏季英語教育セミナー ――豊かな英語の授業を目指して

テーマ：人間力としてのことばの育成
日　時：2007年8月3日（金）10：00～17：00 （国語英語教育セミナー同日開催）
会　場：FORUM8（フォーラムエイト：東京都渋谷区）
URL http://www.forum-8.co.jp
主　催：NPO法人 ILEC言語教育文化研究所
協　賛：株式会社 三省堂
内　容：《ワークショップ》 10：00～12：00 / 13：15～15：15
※午前・午後同一の内容を行います。午前・午後それぞれ別のワークショップにご参加ください。

Ⅰ.「自信を持って英語活動ができる発音クリニック」

下　薫（しも　かおる）［茨城大学非常勤講師］

チャンツ，歌，ゲーム，会話，絵本など小学校の英語活動は実に多彩です。子どもたちはこれらの活動を通して英語の音を耳にし，聞こえてくる通りの音を発話します。子どもたちが英語の音に慣れ，発話するためには豊かな英語のインプットが必要になります。アルファベットの音，リズム，音と音のつながりなど，音の決まりを確認しながら，先生方が授業をリードしていくための発話のコツを，さまざまな活動を通して紹介します。

Ⅱ.「子どもの心に響くアクティビティー」

永井　淳子（ながい　じゅんこ）［東横学園小学校英語科講師，日本外国語専門学校児童英語教育専攻科講師］

日本全国，多くの学校で取り組まれている「小学校英語」ですが，その内容はさまざまです。中学校での英語学習を開始する前に子どもたちに体験させたいこととは一体何なのでしょうか？　小学校のうちだからこそ，身につけることのできる力とは？　子どもの心に響くアクティビティーを体験していただきながら，一緒に考えてみたいと思います。

Ⅲ.「コミュニカティブなテストを作る」

根岸　雅史（ねぎし　まさし）［東京外国語大学教授］

授業はコミュニカティブになったけれども，テストは相変わらずの総合問題と文法問題。これでは，授業と整合性のある評価はできません。この分科会では，この度出版された『コミュニカティブ・テスティングへの挑戦』に沿って，コミュニカティブ・テスティングの理論と実際のテスト作成について紹介します。

Ⅳ.「文法指導―いつ？何を？どうやって？」

太田　洋（おおた　ひろし）［駒沢女子大学助教授］

文法の教え方について，知っておくと役立つ理論，効果的な文法の教え方をご参加のみなさんとご一緒に考えたいと思います。ワークショップの流れは，1．研究等でこれまでに言われていることをざっと見て　2．いつ，何を，どのように教えるかを，実際の活動を体験していただきながら，文法指導について授業のヒントが得られるようなワークショップにしたいと思います。

Ⅴ.「生徒をワクワク，ドキドキさせる授業作り」

小寺　令子（こでら　れいこ）［東京都文京区立第十中学校教諭］

「生徒がワクワク，ドキドキしながら授業に取り組む」とはどのようなことなのでしょうか。楽しく乗せながら子どもたちを巻き込んでいく授業作り，心臓がドキドキしてしまう場面を取り入れた授業作りをお見せいたします。Warm Up Taskから教科書を使った読解指導を中心に行いますが，評価での試行錯誤，少人数学級での悩みなど，これまで取り組んできた公立中学校のさまざまな課題についてもお話しいたします。

《全体会・講演》 15：30～17：00

「言語教育――やる気が半分です」

ピーター・バラカンさん　［ブロードキャスター］

声だけ聞いていると日本人と間違えてしまうほどの流暢な日本語。本講演では，そんな知日家のバラカンさんが語る「ことば」「コミュニケーション」「異文化」をご堪能ください。

参加費：6,000円（当日，受付にてお支払いください。）
定　員：200名
申込み・問合せ：NPO法人 ILEC言語教育文化研究所 夏季セミナー事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-22-14　TEL03-3230-9241　FAX03-3230-9569　URL http://www.ilec.jp/

TEACHING ENGLISH NOW
9号
2007年
4月1日発行
定価80円
（本体76円）

編集・発行人：八幡統厚
発行所：株式会社三省堂
〒101-8371　東京都千代田区三崎町2-22-14
電話（03）3230-9422（編集）
振替　東京00160-5-54300
［NEW CROWN ホームページ］
http://tb.sanseido.co.jp/newcrown/index.html
印刷：三省堂印刷株式会社
〒192-0032　東京都八王子市石川町2951-9
電話（0426）45-6111（代）

編集後記

Web「三省堂英語 教科書・教材 SANSEIDO ENGLISH」（URL http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/index.html）にて，授業をサポートする資料（年間指導計画表，評価規準例，移行措置資料等），題材リンク集，教師用指導書・指導用教材・生徒用教材の紹介ほか，英語教育に関する情報を掲載しています。

デザイン：牧野剛士（株式会社マキノプロダクション）・橋本竜志

語法に強い，現代英語に強い
学習英和・和英の最高峰

ウィズダム WISDOM

英和・和英同時新発売

ウィズダム英和辞典 第2版

井上永幸・赤野一郎 編
定価3,465円（本体3,300円＋税）　B6変型判2,144頁

- より使いやすく，より的確に——最新の成果を取り入れた全面改訂版
- コーパス分析を深化させ，現代英語の実勢を反映した語法，用例，語釈
- 各種新機軸コラムで，学習・受験のあらゆる場面をサポート

ウィズダム和英辞典 第2版

小西友七 編集主幹
定価3,465円（本体3,300円＋税）　B6変型判2,112頁

- 自然な日本語を自然な英語へ豊富な用例，充実の語法解説
- ディスコース重視——まとまった文章を書く際に必要な情報を満載
- 日本人のこころを映し出す日本の名作の翻訳例も多数紹介

21世紀初　一冊もの［国語＋百科］
日本語の現在を映す　驚異の23万8千項目

ミリオンセラーの11年ぶりの全面改訂

大辞林

第3版

松村 明［編］
B5変型判　特価7,665（※2007年5月末日まで）　定価8,190円

1つの辞書で2つの引き方が可能

三省堂デュアル・ディクショナリー

URL: http://www.dual-d.net/

辞書をご購入いただいた方に,ウェブ上で,大辞林とウィズダム英和・和英のそれぞれの検索サービスをご利用いただけます。紙の辞書の一覧性・視認性と,電子辞書の検索速度・柔軟性を兼ね備えた「新しい辞書のかたち」を提案します。

単行本

田邉祐司・松畑熙一・服部孝彦・坂本万里・Charles Browne 編著

がんばろう! イングリッシュ・ティーチャーズ!
[自主研修ハンドブック]

2,100 円（税込） A5　208 頁　ISBN 978-4-385-36279-3

ーすべての英語教師に贈る応援歌ー　英語教師としての力量を高めたい。そんな教員のための自主研修ハンドブック。基本的な考え方を解説し，実例を多数紹介。さらに文献やウェブなどのリソースも収録。「英語力」と「授業力」を高める，英語教師必携の書。

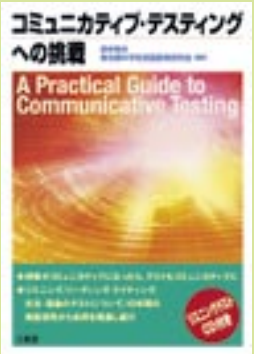
目　次

第Ⅰ章　学びに立ち向かう
第Ⅱ章　「英語運用能力」と「英語教授力」
第Ⅲ章　実践報告 — がんばっているイングリッシュ・ティーチャーズ
第Ⅳ章　Plan, Do, See
第Ⅴ章　英語教師のライブラリー：学びに立ち向かうためのガイド
第Ⅵ章　さらなる学びのために

根岸雅史・東京都中学校英語教育研究会 編著

コミュニカティブ・テスティングへの挑戦
リスニングテスト CD 付き

2,520 円（税込） B5 160 頁　ISBN 978-4-385-36281-6



コミュニカティブな授業には，コミュニカティブなテストを! これからのテストには，現実の言語の使用場面を想定した「コミュニカティブ・テスティング」が必須。10 年間の実践研究から良問を精選し紹介。

目　次

第 1 章　コミュニカティブ・テスティング以前
第 2 章　コミュニカティブ・テスティングとは?
第 3 章　コミュニカティブ・テスティングの実際
第 4 章　スピーキングのテストの実際
第 5 章　英語の定期試験作成のポイント
第 6 章　都中英研英語コミュニケーションテストの分析結果

斎藤栄二・竹内 理 編著

小学校英語 学級担任のための活動アイディア集　3・4 年生用 / 5・6 年生用

各 2,100 円（税込）　各 B5　【3・4 年生用】152 頁　ISBN 978-4-385-36284-7 /【5・6 年生用】160 頁　ISBN 978-4-385-36283-0

【3・4 年生用】

【5・6 年生用】

すぐ使えます!

小学校現場の先生の実践からうまれた英語活動アイディア集。「ワークシート」や「カード」などを使って楽しく取り組める活動を豊富に紹介。また，授業後に子どもたちが学んだことをまとめる「ふりかえりシート」付き。

三省堂
http://www.sanseido.co.jp/

□本　社　〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14　TEL. 03（3230）9411（編集案内）・9551（営業）
TEL. 03（3230）9422（英語教科書編集部）
□大阪支社　〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3　TEL. 06（6341）2177
□名古屋支社　〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F　TEL. 052（252）9211・9212
□九州支社　〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1　TEL. 092（531）1531・1532
□札幌営業所　〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ノヴァ 15 ビル 2F　TEL. 011（616）8722